

和をもって

第32号

発行
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
http://www.nariaiji.jp/

「照見五蘊皆空」

冬晴れが心地よい師走の候、皆

様においてはいかがお過ごしでしょうか。今年の夏は大変暑く残暑も厳しく体調を崩された方も多かったですのではないかと心配しています。成相寺では、雨不足の影響により境内の石楠花が枯れる被害がありました。散水機で順番に水やりをするのですが、なかなか追いつかないものでした。涼しくなり秋の気配を感じる頃には、鹿の被害で境内地の花や葉っぱを次々に食べられてしまい、すっかりお寺から花が消えつつあります。困ったものですが、この暑さで山にも食べ物がないと聞きます。今年の冬は暖冬と言われていますし、雪も少ないかもしれません。来年は人間も動物も過ごしやすい一年になることを祈るばかりです。

語訳を掲載してまいりました。今回は第三回目として、その続きから解説し、皆様とより理解を深めていきたいと思えます。



「観音様が、彼岸へ渡るための智慧の修行をなされたとき」どうなつたかと言いますと、「五蘊がす

べて、空であると照見なされた」のですね。照見とは、真実を明らかにするといった感じのイメージです。

五蘊というのは、五つの蘊ということで、人間の認識作用のことを蘊といえます。

「色」「受」「想」「行」「識」と分けられています。

例えば、信号の無い横断歩道を大きな荷物を持ったお婆さんが渡ろうとしていたとしましょう。この現象が「色」です。

この現象を見て、大丈夫かな、ちゃんと渡れるかなと思ったことが「受」です。

でも、手を引いて一緒に渡ってあげるのも意外と恥ずかしいかもしれないし、周りに出しゃばりっと思われるかもしれないな。と連想したことが「想」です。

しかし無視してはおけないと「お婆さん、一緒に渡りましょうか」と声をかけにいくことが「行」です。

結果、助けることが出来て良かったけど、本当はお婆さんじゃなくて割と長髪のお爺さんと分かり、先入観で判断するのは良くないなと知識を得ることが「識」となります。

これらのように我々が無意識に行っている人間の認識作用が、全部「空」ですよと仏様は言っておられるのですね。

次回は「空」の説明になります。

南無観世音菩薩 合掌

副住職 龍眞



西川第二十八巻
成相山成相寺

山内順礼

今回は「真向の龍」をご紹介します。

成相寺の本堂には「真向の龍」と呼ばれる龍の彫刻がお祀りしてあります。

この龍の彫り物は飛驒の伝統的な彫刻職人・左甚五郎作と伝わる作品です。

『江戸時代に雨乞いのため、龍の彫刻を成相寺に奉納することになり、折しも宮津に滞在していた甚五郎に製作の依頼が舞い込みました。甚五郎は快諾したものの、見たことのない龍など彫れるのかと途方に暮れてしまします。そんな中、夢の中で甚五郎は龍の住処を教えられます。早速、夢で教えられた道をたどり滝壺に降り立ち、祈ること三日間。渦を巻き白く沸き返

真向まむぎの龍

る滝壺からついに龍が姿を現しました。龍は一瞬、甚五郎と対峙すると、見る間に天空へと立ち昇り、雲の間に消えていきました。』

こうして完成したのが「真向の龍」といわれております。

龍の彫刻は一般的に正面から見て横顔のものが多くですが、この作品は珍しく正面を向いております。このことから「真向の龍」といわれています。

来年、令和六年は辰年です。龍は天に昇るイメージから成功や発展の象徴とされ、仕事運や金運、商売繁盛、縁結びなどのご利益があるともいわれています。来年も皆様にとって飛躍の年になりますよう心よりご祈念申し上げます。



左甚五郎作
真向の龍